

## マタイの福音書 第3章 1節

「そのころ、バプテスマのヨハネが現れ、ユダヤの荒野で教えを宣べて、言った。」

聖書には荒野の表現が多くあらわれます。人里離れ、一木一草さえ見当たらない、およそいのちと縁が無い地帯を指しています。ユダヤと言われる地名はあるが、その地域に見渡す限り枯れ果てた土地、水の一滴も見ることが無い、渴ききった石ころだらけの風景が広がります。

このような荒野に現れ、教え始めたバプテスマのヨハネです。なぜ大都会の群衆が行き交う官庁や、繁華街や、市場ではないでしょうか。彼は、都会を離れ、わざわざ荒野に足をのばします。荒野に足を踏み入れます。どうしてでしょうか。悔い改めのバプテスマを迫る彼にとっては、荒野でも、都会でも人は皆、人生の荒野に立っている姿を見通していたからです。人生の荒野を、文字通りの荒野に立つことで、都会のまやかしと欺きを告発し、人々が目覚めることを促します。告発だけではなく、目覚めさせ、人生の方向転換を迫ります。人生の方向を定めるべきお方、イエス・キリストがこられるからです。

荒野であろうが、大都会であろうが、どこにあっても宣べ伝えることはひとつです。罪を悔い改め、人生の方向を定めてくださる主イエス・キリストに向くことです。